

(2) 報告事項

① 森林生態系保護地域内の人工林から天然生林への誘導手法について

朝日山地森林生態系保護地域の管理計画（平成15年3月設定）において、保全利用地区の人工林は、「針広混交林化を図るために必要な施業を行い、将来は天然林に導くこと」としています。

また、「保護林等における人工林の取扱いについて」（平成27年2月25日付け26東計第81号東北森林管理局長通達）で施業の留意点等が規定されており、これらに基づき、針広混交林化の取組を推進しています。

i 庄内森林管理署管内116林班い小班内における取組結果

ア 取組の概要（庄内署管内）

場所：大鳥森林事務所管内116林班い小班内（平成2年スギ植栽）

面積：0.08ha（2区画）

目的：天然生林への誘導にあたり、どのような更新補助作業等が有効かを検証します。

方法：刈払い・つる切りを行う区域、刈払い・つる切り・除伐を行う区域、施業を行わない区域を設定し、広葉樹の成長状態、下層植生を比較します。

期間：平成28年度～令和2年度

実施項目：① 林床植生モニタリング調査（平成28年度～令和3年度）

② 更新補助作業（平成28年度～令和2年度）

③ 山取苗植栽（平成28年度～令和元年度）

④ その他（照度の測定等（令和元年度～令和2年度））

イ 林床植生モニタリング調査

令和3年10月13日に、山形大学農学部 菊池准教授、学生3名、朝日センター3名で調査を実施しました。

調査方法は、施業区プロット（10m×10m）6箇所、無施業区（10m×10m）2箇所です。胸高直径4cm未満、樹高1.5m以上の広葉樹の成長調査を行った。胸高直径4cm未満、樹高1.5m未満の広葉樹は低木層と草本層に区分し優占度を調査しました。

設定から5年目の現段階では、設定時に生育していた稚樹が生育を続けていますが、更新補助作業の違いによる明確な成長状態の差や樹種の変化は見られておりません。



山形大学生 林床植生モニタリング調査



試験地360° カメラでの撮影



試験地ドローン撮影

ウ 今後の取組

これまでの調査結果の取りまとめを行い、更新補助作業と広葉樹の成長状態について検討を行います。

山形大学農学部と連携し、林床植生モニタリング調査を継続します。